



Cisco VCS Starter Pack Express 導入ガイド

Cisco VCS X7.2

D14618.06

2012 年 8 月

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 (www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

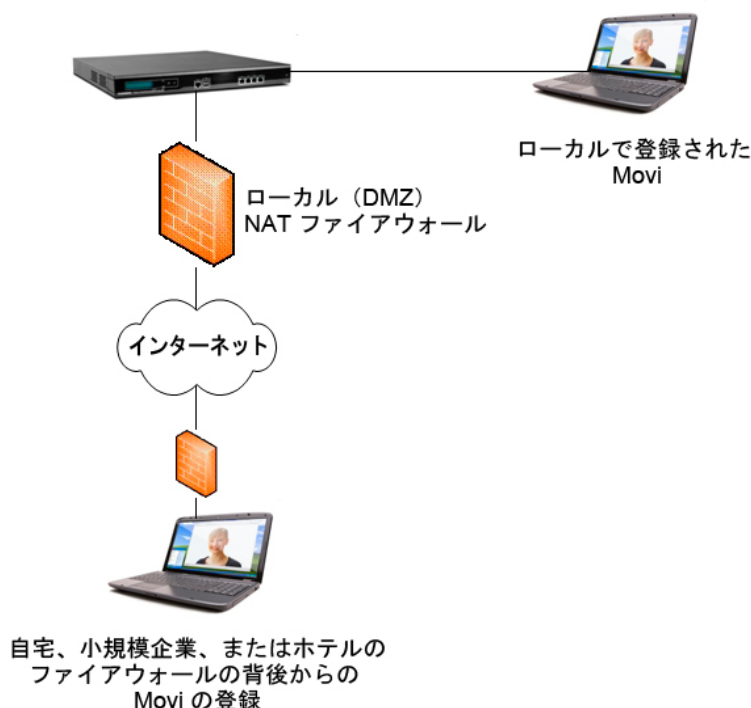
目次

はじめに	3
このマニュアルの目的	3
関連資料	4
VCS の設定	5
ファイアウォール ポート	5
オプション キーの確認	5
VCS のルーティング可能アドレスの設定	6
VCS の SIP ドメインが設定されているかの確認	6
FindMe の有効化	7
デバイス認証の設定	9
プレゼンス サーバの有効化（オプション）	11
ユーザ アカウントの作成	12
ユーザの認証クレデンシャルの作成	13
Movi および他のエンドポイントにプロビジョニングされる帯域幅の設定（オプション）	14
Movi/Jabber Video のインストールと設定	16
Starter Pack インストールのテスト	19
ローカル システム テスト	19
パブリック ネットワーク テスト	19
自宅、小規模企業またはホテルのファイアウォールの背後のテスト	20
プロビジョニング サーバのステータスの確認	21
付録 1：基本的な VCS 設定	23
付録 2：トラブルシューティング	24
Movi サインイン メッセージ	24
シグナリング レベルのトラブルシューティング	27
付録 3：スターター パック プロビジョニングと Cisco TMS プロビジョニングの比較	30
付録 4：既知の制限	32
ユーザの表示名の変更	32
付録 5：SIP URI で使用可能な文字	33
付録 6：発信者の FindMe ID の判別	34
付録 7：Movi/Jabber Video および Active Directory（NTLM）の認証	35

はじめに

Starter Pack オプション キーのある Cisco TelePresence Video Communications Server (Cisco VCS) によって、Cisco VCS Starter Pack Express が作成され、Movi/Jabber Video などのエンドポイント デバイスのスタンドアロン プロビジョニング サーバ、レジストラおよびプロキシサーバとして機能します。

Cisco VCS Starter Pack Express により、エンドポイントはこのサーバへの登録をローカルに、または自宅、小規模企業あるいはホテルのファイアウォールの背後から行うことができます。



Cisco VCS Starter Pack Express がファイアウォールの背後にいる Movi ユーザにサービスを提供する場合、VCS にはパブリック IP アドレスが必要です。また、ローカル (DMZ) ファイアウォールは、VCS への特定のパブリック IP アドレス トラフィックを通す必要があります。

デュアル ネットワーク インターフェイス オプションは、Cisco VCS Starter Pack Express で使用できます。有効にすると、VCS はローカル スタティック NAT ファイアウォールの背後に導入することができます。VCS が他のデバイスと通信する際に、ローカル NAT ファイアウォールの背後にあってもインターネットのルーティング可能なデバイスとして表示されるように、VCS をローカル (DMZ) NAT ファイアウォールのパブリック IP アドレスを使用して設定します。

ファイアウォールおよび他のインフラストラクチャを経由したコールの発信時に、十分な帯域幅が利用可能であることを確認する必要があります。たとえば、各方向で 512 kbps を使用する 5 つの同時コールでは、通常の動作に加えてこのビデオ トラフィック用に 2.5 Mbps の帯域幅が必要になります。

このマニュアルの目的

この導入ガイドでは、Cisco VCS Starter Pack Express を設定するのに必要な設定手順について説明します。この設定手順には、基本的な設定、プロビジョニング、デバイス認証、およびユーザがサインオンする際に、Movi/Jabber Video クライアントがプロビジョニングされるようにユーザ アカウトを設定する方法も含まれます。

関連資料

マニュアル リビジョン 番号	タイトル
D14049	『Cisco VCS Administrator Guide』
D14088	『FindMe Express User Guide』
D14427	『Provisioning Troubleshooting Guide』
D14525	『Cisco VCS FindMe Deployment Guide』
D14819	『Cisco VCS Authenticating Devices Deployment Guide』
D14410	『Cisco TelePresence Movi / Jabber Video Administrator Guide』
D14526	『Authenticating Cisco VCS accounts using LDAP Deployment Guide』

VCS の設定

この導入ガイドでは、VCS は IP ネットワークでアクセス可能であり、基本的な設定が実装されているものとします。これは、VCS で次の内容が設定されていることを意味します。

- IP 詳細
- DNS 詳細
- NTP サーバ詳細

注：このコンフィギュレーションの実行方法について簡単な説明が、付録 1：基本的な VCS 設定 (P.23) にあります。

システムが未登録エンドポイントへのコールのサポートに必要な場合、DNS ゾーンを検索ルールとともに設定する必要があります。この検索ルールは、VCS のローカル SIP ドメイン用ではない DNS ゾーンへのコールをすべて送信します。

ファイアウォール ポート

VCS が DMZ 内に配置されている場合、受信される SIP コールを有効にするには、次の IP ポートをファイアウォール経由の VCS に対して開いておく必要があります。

- 5060（基本 SIP 接続が必要な場合）
- 5061（SIP over TLS 用）
- 50000 ~ 52399（メディア用）

オプション キーの確認

次のようにスターターパックが有効であることを確認します。[スターターパック (Starter Pack)] オプションキーが [オプションキー (Option keys)] ページにリストされていることを確認します ([メンテナンス (Maintenance)] > [オプションキー (Option keys)])。

The screenshot shows the 'Option keys' page in the VCS configuration interface. The page has a breadcrumb trail: Status > System > VCS configuration > Applications > Maintenance. The 'Option keys' table has two columns: 'Key' and 'Description'. One row is highlighted with an orange border, showing the key '116341S00-1-653CD1B6' and the description 'Starter Pack'. Below the table are buttons for 'Delete', 'Select all', and 'Unselect all'. Below the table is a 'System information' section with a 'Hardware serial number' field and an 'Active options' field containing the text '0 Non Traversal Calls, 5 Traversal Calls, 50 Registrations, 900 TURN Relays, Expressway, Encryption, FindMe, Starter Pack.'. Below that is a 'Software option' section with an 'Add option key' field and an 'Add option' button.

コール ライセンス

デフォルトで、スターター パックでは最大 5 つの同時コールがサポートされます。追加トラバーサル コール ライセンス オプション キーは、必要に応じて追加できますが、スターター パックには最大 25 個の同時コールの制限があります。

スターター パックはトラバーサル コールに対してのみライセンスを付与できることに注意してください。スターター パックは、非トラバーサル コールをサポートしますが、非トラバーサル コールが発生するとトラバーサル ライセンスが 1 つ消費されます。

VCS のルーティング可能アドレスの設定

VCS のルーティング可能アドレス (FQDN) は、プロビジョニングされるデバイスを SIP レジストラとして使用するために、そのデバイスに対してプロビジョニング システムが提供するアドレスです (登録要求の送信先のアドレス)。

1. [クラスタリング (Clustering)] ページ ([VCS 設定 (VCS configuration)] > [クラスタリング (Clustering)]) に移動します。
2. 各フィールドを次のように設定します。

クラスタ名 (プロビジョニング用 FQDN) (Cluster name (FQDN for Provisioning))	VCS のルーティング可能アドレス、可能な場合は VCS の DNS SRV アドレス、または、DNS A レコードか IP アドレス。 通常、IT 部門は、この VCS 用の FQDN を提供し、ネットワークで SIP コール、HTTPS、およびその他の IP トラフィックが FQDN 宛ての場合に、この VCS ヘルパーティングするように設定されているか確認します。
--	---

このページで他のフィールドの設定は必要ありません。

3. [保存 (Save)] をクリックします。

The screenshot shows the 'Clustering' configuration page in a web interface. The breadcrumb path is 'VCS configuration > Clustering'. The 'Configuration' tab is active. The 'Cluster name (FQDN for Provisioning)' field contains 'vcs.example.com'. The 'Cluster pre-shared key' field is empty and marked with a red asterisk. The 'Configuration master' is set to '1'. There are six empty input fields for 'Peer 1 IP address' through 'Peer 6 IP address'. At the bottom, there are 'Save' and 'Refresh' buttons.

VCS の SIP ドメインが設定されているかの確認

VCS をこのインストール用に使用される SIP ドメインで設定する必要があります。

1. ドメインが設定されていない場合は、[ドメイン (Domains)] ページ ([VCS 設定 (VCS configuration)] > [プロトコル (Protocols)] > [SIP] > [ドメイン (Domains)]) で、[New] をクリックします。

- 各フィールドを次のように設定します。

名前 (Name)	このインストールに使用される SIP ドメイン (例 : example.com)
-----------	---

- [Create domain] をクリックします。

FindMe の有効化

FindMe は有効で、使用するよう設定されている必要があります。

- [FindMe の設定 (FindMe configuration)] ページ ([アプリケーション (Applications)] > [FindMe] > [設定 (Configuration)]) に移動します。
- 各フィールドを次のように設定します。

FindMe モード (FindMe mode)	オン (On)
発信者 ID (Caller ID)	[FindMe ID] : この VCS 経由で作成されているコールの発信者 ID は、関連する FindMe ID に置き換えられます。
ユーザがデバイスを設定することを制限 (Restrict users from configuring their devices)	ユーザが独自のデバイスを追加、削除、または変更することを制限されるかどうかを制御します。デフォルトは [オフ (Off)] です。 デフォルトで FindMe ユーザは、システム管理者によって割り当てられた主要なデバイスまたはプロビジョニングされたデバイスすべてに加えて、さらにデバイスを設定することができます。この設定を使用して、ユーザが独自のデバイスを追加するのを防ぎ、ロケーションと関連デバイスの管理しかできないように制限することができます。
デバイス作成メッセージ (Device creation message)	[FindMe モード (FindMe mode)] が [オン (On)] の場合にのみ表示されます。ここに入力されたテキストは、FindMe コンフィギュレーションにデバイスを追加する際にユーザに表示されます。HTML マークアップの限定セットは、[保存 (Save)] をクリックするとページの下部にあるウィンドウにプレビューされるメッセージでサポートされています。サポートされるタグの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。 次にメッセージの例を示します。 「Phone numbers: use the prefix 9」

- [保存 (Save)] をクリックします。

Status System VCS configuration **Applications** Maintenance

FindMe configuration You are here: [Applications](#) > [FindMe](#) > Configuration

Configuration

FindMe mode ⓘ

Caller ID ⓘ

Restrict users from configuring their devices ⓘ

Device creation message ⓘ

Cluster name (FQDN for Provisioning) vcs.example.com

[発信者 ID (Caller ID)] および [FindMe ID] の使用の詳細については、付録 6：発信者の FindMe ID の判別 (P.34) を参照してください。

デバイス認証の設定

デバイス認証を使用することが推奨されます。デバイス認証によって、VCS にとって既知のユーザ名およびパスワードとエンドポイントを使用して、エンドポイントが自身を識別できることを検証します。

VCS では、認証クレデンシャルの検証方法として 3 種類の方式がサポートされています。

- オンボックス ローカル データベースとの照合
- 外部 H.350 ディレクトリ サービスへの LDAP 接続経由
- Kerberos 接続を使用した Active Directory サーバへの直接アクセス経由 (NTLM チャレンジのみ)

バージョン X7.2 以降の VCS は、提示されたクレデンシャルを検証するために、最初にユーザ名とパスワードが格納されているオンボックスのローカル データベースと照合します。

ユーザ名がローカル データベース内で見つからない場合、VCS は、外部の H.350 ディレクトリ サービスにリアルタイムで LDAP 接続して、クレデンシャルの検証を試みることもできます。このディレクトリ サービスが設定されている場合は、Microsoft Active Directory LDAP サーバ用または OpenLDAP サーバ用の H.350 ディレクトリ スキーマが存在する必要があります。

デバイスが NTLM チャレンジをサポートしている場合、前述のいずれかの方法とともに、VCS は Kerberos 接続で Active Directory サーバに直接アクセスしてクレデンシャルを検証することもできます。この方法は、限定された範囲のエンドポイントによってのみサポートされます (書き込み時、Movi あるいは Jabber Video 4.2 以降のみ)。この認証方式が使用される場合、他の非サポートのエンドポイントデバイスは、残りの 2 つの認証方式のいずれかを使用して認証を継続します。詳細については、付録 7 : Movi/Jabber Video および Active Directory (NTLM) の認証を参照してください。

ユーザ アカウントの設定時にローカル データベース内のユーザのエンドポイント認証クレデンシャルを設定するために適切なプロンプトが示されることに注意してください。

詳細については、『*Device Authentication on Cisco VCS Deployment Guide*』を参照してください。

クレデンシャルを確認するためのデフォルト ゾーンの設定

これにより、VCS は未登録のエンドポイントからのプロビジョニング要求およびコール要求のクレデンシャルを確認できるようになります。

1. [ゾーン (Zones)] ページ ([VCS 設定 (VCS configuration)] > [ゾーン (Zones)] > [ゾーン (Zones)]) に移動します。
2. [デフォルトゾーン (DefaultZone)] をクリックして、[デフォルト ゾーン (Default Zone)] ページに移動します。
3. [認証ポリシー (Authentication policy)] 設定を、[クレデンシャルを確認する (Check credentials)] に設定します。
[認証ポリシー (Authentication policy)] 設定が [クレデンシャルを確認しない (Do not check credentials)] になっている場合、Movi ユーザはサインインできないことに注意してください。
4. [保存 (Save)] をクリックします。

Status	System	VCS configuration	Applications	Maintenance
You are here: VCS configuration > Zones > Zones > Default Zone				
Default Zone				
Policy				
Authentication policy		Check credentials		
SIP				
Media encryption mode		Auto		
Use Default Zone access rules		No		
<input type="button" value="Save"/>				

クレデンシャルを確認するためのデフォルトサブゾーンの設定

これにより、VCS はデフォルトサブゾーンを介して受信されるメッセージのクレデンシャルを確認できるようになります。この設定には、登録要求、電話帳要求、およびプレゼンスメッセージが含まれます。

5. [デフォルトサブゾーン (Default Subzone)] ページ ([VCS 設定 (VCS configuration)] > [ローカルゾーン (Local Zone)] > [デフォルトサブゾーン (Default Subzone)]) に移動します。
6. [認証ポリシー (Authentication policy)] 設定を、[クレデンシャルを確認する (Check credentials)] に設定します。
[認証ポリシー (Authentication policy)] 設定が [クレデンシャルを確認しない (Do not check credentials)] になっている場合、エンドポイントはプレゼンスをパブリッシュできない、または電話帳を使用できないことに注意してください。
7. [保存 (Save)] をクリックします。

追加のサブゾーンを設定する場合は、それらのサブゾーンそれぞれの認証ポリシーを設定して、クレデンシャルも確認することが推奨されます。

Status	System	VCS configuration	Applications	Maintenance
You are here: VCS configuration > Local Zone > Default Subzone				
Default Subzone				
Policy				
Registration policy		Allow		
Authentication policy		Check credentials		
SIP				
Media encryption mode		Auto		
Total bandwidth available				
Bandwidth restriction		Unlimited		
Total bandwidth limit (kbps)		* 500000		
Calls into or out of the Default Subzone				
Bandwidth restriction		Unlimited		
Per call bandwidth limit (kbps)		* 1920		
Calls entirely within the Default Subzone				
Bandwidth restriction		Unlimited		
Per call bandwidth limit (kbps)		* 1920		
<input type="button" value="Save"/>				

プレゼンス サーバの有効化（オプション）

プレゼンス サーバにより、プロビジョニングされたクライアントは他のクライアントのプレゼンスステータス（[オンライン（Online）]、[不在（Away）]、[通話中（Busy in a call）] および [オフライン（Offline）]）を確認することができます。

1. [プレゼンス（Presence）] ページ（[アプリケーション（Applications）] > [プレゼンス（Presence）]）に移動します。
2. [SIP SIMPLE プレゼンス サーバ（SIP SIMPLE Presence Server）] を [オン（On）] に設定します。
3. [保存（Save）] をクリックします。

The screenshot shows the VCS configuration interface with the 'Applications' tab selected. The 'Presence' section is active, showing the following settings:

- PUA**
 - SIP SIMPLE Presence User Agent: Off
 - Default published status for registered endpoints: Online
- Presence Server**
 - SIP SIMPLE Presence Server: On

A 'Save' button is located at the bottom left of the configuration area.

ユーザ アカウントの作成

各ユーザに対するアカウントを次のように設定する必要があります。

1. [ユーザ アカウント (User accounts)] ページ ([メンテナンス (Maintenance)] > [ログイン アカウント (Login accounts)] > [ユーザ アカウント (User accounts)]) に移動して、[新規 (New)] をクリックします。
2. 各フィールドを次のように設定します。

ユーザ名 (Username)	このユーザ アカウントにログインするためのユーザ名 (例: name.surname)。 X7.1 以降から、ユーザ名では大文字と小文字が区別されないことに注意してください。デバイス認証が有効な場合、この同じユーザ名をローカル認証データベース内の名前として使用する必要があります。 このユーザ名は、FindMe デフォルト デバイス URI およびプロビジョニングされたデバイス URI の作成にも使用されます。これらを有効な SIP URI として作成するには、ユーザ名には英数字を使用する必要があります。ただし空白文字、@ 記号、拡張文字 (ö や â など) は使用できません。使用可能文字の全セットについては、付録 5: SIP URI で使用可能な文字を参照してください。
表示名 (Display name)	フォーマットの制限のないユーザの名前。[ユーザ検索 (user search)] ページで表示され、電話帳で使用されます。 たとえば Name Surname
電話番号 (Phone number) (任意)	たとえば ISDN ゲートウェイなどへの発信 H.323 コールで表示される E.164 発信者 ID。これには数字だけを使用できます。空白文字、ハイフン、カッコは使用できません。 ISDN ゲートウェイにコールが発信される可能性がある場合、この電話番号のフォーマットが ISDN プロバイダーの要件と一致するようにします。
FindMe ID	FindMe ID は、すべてのエンドポイントでユーザが接続できる固有のエイリアスです。URI、H.323 ID、または E.164 番号を使用できます。 Movi などの SIP デバイスとともに使用するには、FindMe ID を SIP URI の形式にする必要があります。たとえば、name.surname@example.com。
[初期パスワード (Initial password)] および [パスワードの確認 (Confirm password)]	VCS 上のユーザ アカウントにログインするためのパスワード。 パスワード エントリは、[ユーザ認証ソース (User authentication source)] が [ローカル (Local)] に設定されている場合にのみ表示されます (8 ページの FindMe™ の有効化を参照)。
プリンシパル デバイス (Principal devices)	このセクションでは、このユーザ用にプロビジョニングできるプリンシパル デバイスを識別します。これらは、ある人がユーザの FindMe ID にダイヤルする際にコールできるデバイスでもあります。 このユーザに適用するすべてのデバイス タイプを選択 ([オン (On)] に設定) してください。 選択されたデバイスそれぞれの URI は、[ユーザ名 (Username)]、[FindMe ID]、およびデバイス タイプの組み合わせに基づき自動的に生成されます。 <username>.<device type>@<domain portion of FindMe ID> という形式になります。 携帯電話など追加の [他のデバイス (Other device)] の URI も指定して、ユーザの FindMe に含めることができます。

3. プリンシパル デバイスが選択 ([オン (On)] に設定) されると、[認証 (Authentication)] フィールドが [ローカル認証データベース (Local authentication database)] ページへのリンクとともに表示されます。ローカル データベースを認証クレデンシャル ストアとして使用している場合、リンクをクリックしてローカル認証データベース内のユーザ クレデンシャルを追加または編集します。詳細については、後述のユーザの認証クレデンシャルの作成を参照してください。

4. [保存 (Save)] をクリックします。
5. これらの手順を繰り返して、すべてのユーザのアカウントを作成します。

The screenshot shows the 'Create user account' page in a web browser. The breadcrumb trail is: Maintenance > Login accounts > User accounts > Create user account. The page is divided into three main sections:

- User details:** Contains three input fields: 'Username' (value: name.surname), 'Display name' (value: Name Surname), and 'Phone number'.
- FindMe:** Contains three input fields: 'FindMe ID (dialable address)' (value: name.surname@example.com), 'Initial password' (masked with dots), and 'Confirm password' (masked with dots).
- Principal devices:** Contains a list of device types with dropdown menus: 'Movi device' (On), 'E20 device' (Off), 'EX60 device' (Off), 'EX90 device' (Off), 'MX200 device' (Off), and 'Other device' (Off). Below this list is a link: 'Add/edit user account in local database (if user is not authenticated via H.350 directory) for username name.surname and their sign in password'.

At the bottom of the form, there are 'Save' and 'Cancel' buttons.

追加ユーザは、必要に応じて必要時に [ユーザ アカウント (User accounts)] ページに戻って、[新規 (New)] ページをクリックすることにより、後で追加できます。

注 : Cisco VCS Starter Pack Express は、最大 50 人の登録ユーザをサポートします。

アカウントを設定したら、[ユーザ アカウント (User accounts)] ページ ([メンテナンス (Maintenance)] > [ログイン アカウント (Login accounts)] > [ユーザ アカウント (User accounts)]) でユーザを選択して、[表示/編集 (View/Edit)] をクリックすることで詳細 ([ユーザ名 (Username)] 以外) を編集できます。

ユーザの認証クレデンシャルの作成

デバイス認証 (クレデンシャル確認) が有効になっているとき、VCS のローカル データベースに入力されたクレデンシャルは、Movi へのサインオンに使用されるクレデンシャルと正確に一致する必要があります。そうでなければ、プロビジョニング要求、登録要求、コール要求、および電話帳要求が拒否されます。

一般的なインストールでは、ユーザの Movi 認証クレデンシャルとユーザ アカウント ログインの両方に同じパスワードを使用することが推奨されます (ユーザが FindMe の詳細にアクセスする場合)。

1. [ユーザ アカウントの作成 (Create user account)] または [ユーザ アカウントの編集 (Edit user account)] ページの下部近くから、[ローカル認証データベースの追加/編集 (Add/Edit local authentication database)] をクリックします。または、メニューを使用して、[ローカル認証データベース (Local authentication database)] ページ ([VCS 設定 (VCS configuration)] > [認証 (Authentication)] > [デバイス (Devices)] > [ローカル データベース (Local database)]) に移動します。
2. [新規 (New)] をクリックします。
3. 各フィールドを次のように設定します。

名前 (Name)	<p>クレデンシャル名をユーザ アカウント ユーザ名と同じにする必要があります。これは、[ユーザ アカウントの作成 (Create user account)] および [ユーザ アカウントの編集 (Edit user account)] ページへのリンクによって示されています。</p> <p>これは Movi サインイン ユーザ名とも同じです。すべてのユーザ名が一致する必要があります。</p> <p>X7.1 以降から、ユーザ名では大文字と小文字が区別されないことに注意してください。</p>
パスワード (Password)	<p>パスワードは、Movi サインイン パスワードと同じにする必要があります。</p> <p>(通常、これは FindMe 詳細にアクセスするのに使用されるユーザ アカウント パスワードとも同じです)</p>

4. [クレデンシャルの作成 (Create credential)] をクリックします。
5. 必要に応じて、このクレデンシャルを作成するために開かれた新しいウィンドウまたはタブをすべて閉じます。

Movi および他のエンドポイントにプロビジョニングされる帯域幅の設定 (オプション)

VCS は、Movi クライアントおよび他のエンドポイントに帯域幅制限をプロビジョニングすることができます。これらの制限は、受信および発信帯域幅制御に使用するためデフォルト値のクライアントの設定に使用されます。

1. [プロビジョニング (Provisioning)] ページ ([アプリケーション (Applications)] > [プロビジョニング (Provisioning)]) に移動します。
2. [Movi 帯域幅 (Movi bandwidth)] を [オン (On)] に設定します。
 - a. Movi の最大受信帯域幅を確認して、たとえば 512 kbps に設定します。
 - b. Movi の最大送信帯域幅を確認して、たとえば 384 kbps に設定します。
3. 必要に応じて他のデバイス タイプの帯域幅プロビジョニングを有効にします。
4. [Movi ClearPath] を [オン (On)] に設定します。
5. [保存 (Save)] をクリックします。

Status System VCS configuration **Applications** Maintenance

Provisioning You are here: [Applications](#) > Provisioning

Bandwidth limits

Movi bandwidth	On	In	512	Out	384
E20 bandwidth	Off				
Ex60 bandwidth	Off				
Ex90 bandwidth	Off				
MX200 bandwidth	Off				

ClearPath

Movi ClearPath	On
----------------	----

Save

VCS のリンクおよびパイプは、高度な帯域幅制御でも使用できることに注意してください。

Movi/Jabber Video のインストールと設定

Cisco TelePresence VCS Starter Pack Express ソリューションの一部として、TelePresence 用 Jabber Video (Movi) ソフトウェア クライアントの最新バージョンを次の URL からダウンロードできます (www.cisco.com)。Jabber Video (Movi) は IT 管理者がインストールできます。また、より一般的にはエンド ユーザがインストールするようにエンド ユーザに提供されます。

Movi をインストールした後、Movi で VCS Starter Pack Express のユーザ クレデンシャルと接続の詳細を設定する必要があります。

1. Movi を開始します。
2. [詳細設定 (Advanced)] ([Movi サインイン (Movi sign-in)] ページの下部) をクリックします。
3. 各フィールドを次のように設定します。

内部 VCS (Internal VCS)	VCS のプライベート側の DNS 名または IP アドレス。
外部 VCS (External VCS)	VCS のパブリック側の DNS 名または IP アドレス。
SIP ドメイン (SIP Domain)	[SIP ドメイン (SIP Domain)] は、VCS の [ドメイン (Domains)] ページ ([VCS 設定 (VCS configuration)] > [プロトコル (Protocols)] > [SIP] > [ドメイン (Domain)]) の設定と同じにする必要があります。

4. [OK] をクリックして [Movi サインイン (Movi sign-in)] ページに戻ります。
5. 各フィールドを次のように設定します。

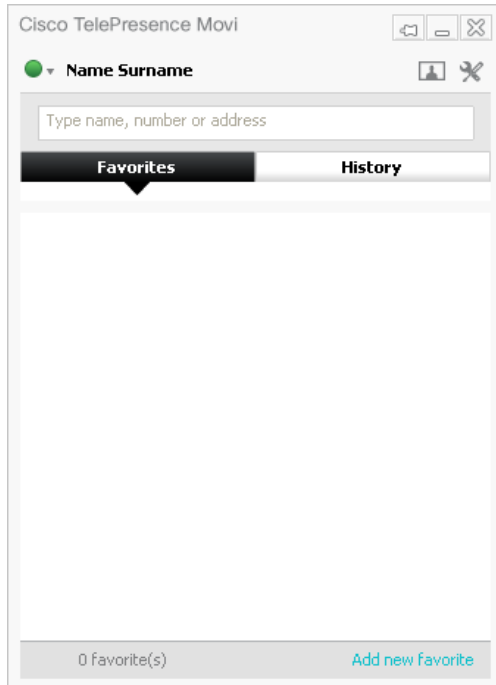
ユーザ名 (Username)	VCS 上の [ユーザ アカウントの作成 (Create user account)] ページ ([メンテナンス (Maintenance)] > [ログイン アカウント (Login accounts)] > [ユーザ アカウント (User accounts)]) で入力されたもの、およびローカル データベース ([VCS の設定 (VCS configuration)] > [認証 (Authentication)] > [デバイス (Devices)] > [ローカル データベース (Local database)]) に保存されたものと同じユーザ名。
パスワード (Password)	これは、このユーザのために入力された認証 クレデンシャル パスワードと同じパスワードにする必要があります ([VCS の設定 (VCS configuration)] > [認証 (Authentication)] > [デバイス (Devices)] > [ローカル データベース (Local database)])。通常これは、VCS 上のユーザのアカウント パスワードと同じになります。

ユーザ名を記憶する (Remember my Username)	Movi を開始するたびにユーザ名を入力しなくてすむようにするには、これを選択します。
パスワードを記憶する (Remember my Password)	Movi がインストールされた PC の唯一のユーザで、パスワードを自動的に適用させたい場合は、これを選択します。
自動的にサインインする (Sign in automatically)	コンピュータにサインインしたときに、自動的に Movi を開始し、サインインする必要がある場合は、これを選択します。
次のステータスでサインインする (Sign me in as)	サインインしたときに、他のユーザに表示するための最初のプレゼンスステータスを選択します。

6. [サインイン (Sign in)] をクリックします。

発信

Movi にサインインしたときに、別のユーザの FindMe ID を [名前、番号、またはアドレスを入力 (Type name, number or address)] フィールドに入力して、Enter を押すことによりコールを発信できます。



Starter Pack インストールのテスト

ローカル システム テスト

まず、Cisco VCS Starter Pack Express にローカルに登録された Movi デバイスをテストします。

1. 関連クレデンシャルを含め、3人のユーザを設定します。
2. 3台の Movi クライアントをインストールします。
3. 3台の Movi PC を Cisco VCS Starter Pack Express と同じネットワークに接続します。
4. 各 Movi クライアントで、別のユーザ（たとえば、User1、User2、User3）としてサインインして次を実行します。
 - 正常にサインインが行われたことを確認します。
 - 各 Movi ユーザは、[名前、番号、またはアドレスを入力 (Type name, number or address)] フィールドに別のユーザの FindMe ID を入力して、Enter を押すことによって、他のユーザにコールできることを確認します。

結果マトリクス：ローカルのみ		受信 Movi		
		User1 (ローカル)	User2 (ローカル)	User3 (ローカル)
発信 Movi	User1 (ローカル)			
	User2 (ローカル)			
	User3 (ローカル)			

パブリック ネットワーク テスト

ローカル システム テストが正常に行われたら、パブリック ネットワーク内の Movi をテストします。

1. 2台の Movi クライアント (User2 および User3) からサインアウトして、これらの2台の Movi PC をパブリック インターネットに接続します。
2. パブリック インターネットの Movi クライアントで、User2 および User3 としてサインインして、次を実行します。
 - 正常にサインインが行われたことを確認します。
 - 各 Movi ユーザは、[名前、番号、またはアドレスを入力 (Type name, number or address)] フィールドに別のユーザの FindMe ID を入力して、Enter を押すことによって、他のユーザにコールできることを確認します。

結果マトリクス：ローカルおよびインターネット		受信 Movi		
		User1 (ローカル)	User2 (インターネット)	User3 (インターネット)
発信 Movi	User1 (ローカル)			
	User2 (インターネット)			
	User3 (インターネット)			

自宅、小規模企業またはホテルのファイアウォールの背後のテスト

パブリック ネットワーク テストが正常に行われたら、ファイアウォールの背後にある Movi をテストします。

- パブリック ネットワーク内の 2 台の Movi クライアントからサインアウトして、これらを自宅、小規模企業、またはホテルのファイアウォールの背後に接続します。
- ファイアウォールの背後に接続された Movi クライアントのサインを使用して、User2 および User3 としてサインインし、次を実行します。
 - 正常にサインインが行われたことを確認します。
 - 各 Movi ユーザは、[名前、番号、またはアドレスを入力 (Type name, number or address)] フィールドに別のユーザの FindMe ID を入力して、Enter を押すことによって、他のユーザにコールできることを確認します。

結果マトリクス：ローカルおよびファイアウォール背後		受信 Movi		
		User1 (ローカル)	User2 (ファイアウォール)	User3 (ファイアウォール)
発信 Movi	User1 (ローカル)			
	User2 (ファイアウォール)			
	User3 (ファイアウォール)			

プロビジョニング サーバのステータスの確認

プロビジョニング サーバのステータスを確認して、受信したプロビジョニング要求をモニタしたり、プロビジョニングされているデバイスのリストを確認したりすることができます。

プロビジョニング サーバの現在のステータスの確認

[スターター パック ステータス (Starter Pack status)] ページ ([ステータス (Status)] > [アプリケーション (Applications)] > [スターター パック (Starter Pack)] > [スターター パック ステータス (Starter Pack status)]) に移動して、プロビジョニング サーバのステータスを確認し、現在プロビジョニングされているデバイスの数を (デバイス タイプごとに) 表示します。

Status	System	VCS configuration	Applications	Maintenance	Help	Logout
Starter Pack status				You are here: Status > Applications > Starter Pack > Starter Pack status		
Provisioning server						
Status	Active					
Total requests received	31					
Successful provisioning responses sent	31					
Failed: account not found	0					
Failed: account has no provisioned devices	0					
Model licenses						
e20	0 used					
ex60	0 used					
ex90	1 used					
movi	4 used					
mx200	0 used					
Phone book server						
Status	Active					
Search requests received	40					

プロビジョニングされたデバイスの確認

[プロビジョニングされたデバイスのステータス (Provisioned device status)] ページ ([ステータス (Status)] > [アプリケーション (Applications)] > [スターター パック (Starter Pack)] > [プロビジョニングされたデバイスのステータス (Provisioned device status)]) に移動して、プロビジョニング サーバへの送信済みのプロビジョニング要求があるすべてのデバイスのリストを確認します。

Status System VCS configuration Applications Maintenance ? ◀

Provisioned device status You are here: [Status](#) > [Applications](#) > [Starter Pack](#) > Provisioned device status

Filter

Dial string ⓘ

Active (licensed) <all> ⓘ

Model ⓘ

Version ⓘ

Records: 5 Page 1 of 1

Dial string	First provisioning request	Most recent request	Active (licensed)	Reason	Model	Version	Actions
alice.movi@example.com	2012-02-02 12:01:52	2012-02-02 13:02:05	Yes		movi	4.2.0.10318	View
bob.movi@example.com	2012-01-19 09:22:30	2012-01-26 10:25:13	Yes		movi	4.2.0.10318	View
chris.movi@example.com	2012-01-20 17:19:28	2012-01-31 01:14:50	Yes		movi	4.2.0.10318	View
dave.ex90@example.com	2012-01-13 18:42:42	2012-02-02 10:43:40	Yes		ex90	TC5.0.1.2752	View
jim.movi@example.com	2012-02-02 11:26:33	2012-02-02 12:39:05	No	Timeout	movi	4.2.0.10318	View

付録 1 : 基本的な VCS 設定

Web ブラウザ経由での VCS に対する接続、起動、IP アドレスの設定、パスワードの変更、およびアクセスの取得を行うには、『Cisco VCS Getting Started Guide』に指定されたプロセスを実行します。

システム名 (System name)

1. [システム (System)] > [システム (System)] に移動して、[システム名 (System name)] をこの VCS を表す名前、たとえば「VCS Movi server」に設定します。
2. 必要に応じて、Telnet、SSH、HTTP、および HTTPS を有効化または無効化します。

HTTP は HTTPS への単なるリダイレクトであることに注意してください。HTTPS をオフにすると、VCS への Web アクセスが使用できなくなります。

DNS

1. [システム (System)] > [DNS] に移動して、デフォルト DNS サーバの [アドレス 1 (Address 1)] フィールドでデフォルト DNS サーバアドレスを設定します。他の DNS サーバが使用可能な場合、それらの DNS サーバを DNS サーバの復元性の確保のために追加することができます。
2. [ローカル ホスト名 (Local host name)] を、この VCS の DNS ホスト名になるように設定します。この名前には、空白文字を使用できません。
3. [ドメイン名 (Domain name)] を、未認定の DNS 名に追加すると FQDN に入れるサフィックスになるように設定します。

<Local host name>.<DNS domain name> = この VCS の FQDN であることに注意してください。

NTP

1. [システム (System)] > [時間 (Time)] に移動して、[NTP サーバ 1 (NTP server 1)] のアドレスと、VCS が配置される場所の [タイムゾーン (Time zone)] を設定します。
2. [保存 (Save)] をクリックして、このページに戻った後で、[状態 (State)] が [同期済み (Synchronized)] を示すことを確認します。

解説場所

VCS の設定および動作の詳細については、『Cisco VCS Administrator Guide』を参照してください。

付録 2 : トラブルシューティング

Movi サインイン メッセージ

Movi へのサインインに関する問題がある場合、次の例のようなステータス メッセージが表示されます。

The screenshot shows a web browser window titled "Cisco TelePresence Movi". Inside the window, there is a message box that says "Login failed" followed by "Wrong username, domain, and/or password. Check spelling and Caps lock." Below this message are input fields for "Username" (containing "name.surname") and "Password" (containing masked characters). There are three checked checkboxes: "Remember my Username", "Remember my Password", and "Sign in automatically". A "Clear sign-in" link is next to the first checkbox. Below the checkboxes is a "Sign me in as" section with a radio button selected for "Online". A "Sign in" button is at the bottom right. An "Advanced" link is at the bottom left.

次のようなメッセージが表示される可能性があります。

ログインに失敗しました : ユーザ名、ドメイン、および/またはパスワードが正しくありません (Login failed – Wrong username, domain, and / or password)

- Movi サインインで、または VCS で、これらの項目を確認して修正します。間違えて入力したドメイン名がこの問題の一般的な原因です ([VCS 設定 (VCS configuration)] > [プロトコル (Protocols)] > [SIP] > [ドメイン (Domains)] を参照)。Movi SIP ドメインは、Movi をプロビジョニングしていて、Movi が登録する対象の VCS 上の SIP ドメインと一致させる必要があります。
- VCS 許可/拒否リストが登録を妨害していないことを確認します。
- デフォルト ゾーンの [認証ポリシー (Authentication policy)] で [クレデンシャルを確認する (Check credentials)] または [認証済みとして扱う (Treat as authenticated)] が設定されていることを確認します。
 - [認証ポリシー (Authentication policy)] が [クレデンシャルを確認しない (Do not check credentials)] である場合、Movi サインインは失敗します。
 - 認証が [クレデンシャルを確認する (Check credentials)] (推奨) に設定されている場合、適切なユーザ名およびパスワードをローカル認証データベースで設定する必要があります。
- アカウント ユーザ名、認証クレデンシャル名、および Movi サインイン ユーザ名がすべて一致していることを確認します (X7.1 以降から、ユーザ名では大文字と小文字が区別されないことに注意してください)。

- Movi サインイン ユーザ名と認証クレデンシャル名が一致しない場合、最初のサブスクリプションは未許可として拒否されます。
- Movi サインイン ユーザ名とアカウント ユーザ名が一致しない場合、サブスクリプションは認証されますが、「Reason: rejected; Content length: 0」の通知が送信されます。

ログインに失敗しました : ライセンスが不足しています (Login failed – Out of licenses)

- 登録ユーザの数を確認します。最大 50 の同時登録がサポートされています。
- Movi が VCS の正しい IP アドレスに接続しようとしていることを確認します。

ログインに失敗しました : サーバが時間内に応答しませんでした (Login failed – The server did not respond in time)

これは、プロビジョニング要求はサーバによって応答確認されましたが、プロビジョニングメッセージが Movi によって受信されなかったことを意味しています。

- VCS から Movi への通信をブロックしているファイアウォールがないことを確認します。
- VCS が Movi の IP アドレス (あるいは、自宅、小規模企業、またはホテルのファイアウォールの背後の場合は、そのファイアウォールの外側の IP アドレス) にコンタクトできることを確認します。

ログインに失敗しました : DNS でサーバが見つかりませんでした (Login failed – Could not find server in DNS)

用語の「サーバ」は、Movi がプロビジョニングされる前はプロビジョニング サーバを指しています。また、Movi がプロビジョニングされた後は VCS を指しています。

- Movi の [詳細設定 (Advanced)] ダイアログの [内部 VCS (Internal VCS)] および [外部 VCS (External VCS)] の名前が Movi PC によって解決可能であることを確認します。たとえば、DNS 名に ping を試行します。(これらは、Movi がプロビジョニングされることを要求する際に使用するアドレスです)
- VCS の [VCS 設定 (VCS configuration)] > [クラスタリング (Clustering)] ページの [クラスタ名 (プロビジョニング用 FQDN) (Cluster name (FQDN for Provisioning))] が Movi PC によって解決可能であることを確認します。たとえば、DNS 名に ping を試行します。

ログインに失敗しました : サーバに接続できません (Login failed – Unable to connect to server)

用語の「サーバ」は、Movi がプロビジョニングされる前はプロビジョニング サーバを指しています。また、Movi がプロビジョニングされた後は VCS を指しています。

- Movi の [詳細設定 (Advanced)] ダイアログの [内部 VCS (Internal VCS)] および [外部 VCS (External VCS)] の名前が Movi PC によって解決可能であり、スターターパックアドレスに解決されることを確認します。たとえば、DNS 名に ping を試行します。(これらは、Movi がプロビジョニングされることを要求する際に使用するアドレスです)
- VCS の [VCS 設定 (VCS configuration)] > [クラスタリング (Clustering)] ページの [クラスタ名 (プロビジョニング用 FQDN) (Cluster name (FQDN for Provisioning))] が Movi PC によって解決可能であり、スターターパックアドレスに解決されることを確認します。たとえば、DNS 名に ping を試行します。
- [TCP モード (TCP mode)] および [TLS モード (TLS mode)] が両方とも [オン (On)] に設定されていることを確認します。(これは、[VCS 設定 (VCS configuration)] > [プロトコル (Protocols)] > [SIP] > [設定 (Configuration)] ページで確認します)
- VCS で、Movi がアクセスしようとしているポートをリッスンするように設定されていることを確認します。デフォルトでは、[TCP ポート (TCP port)] = 5060 および [TLS ポート (TLS port)] = 5061 です。(これは、[VCS 設定 (VCS configuration)] > [プロトコル (Protocols)] > [SIP] > [設定 (Configuration)] ページで確認します)

コールが失敗しました : ユーザが見つかりませんでした。ユーザはオフラインであるか、または存在しません。(Call failed – The user could not be found. The user is offline or does not exist.)

[名前、番号、またはアドレスを入力 (Type name, number or address)] フィールドに入力された着信者 ID を確認します (過去のエントリは、[最近のコール (Recent calls)] タブの下で使用可能です)。

これが正しい場合は、次を確認します。

- 着信側はオフラインですか?
- 着信側はこのネットワークでダイヤル可能ですか?

コールが失敗しました : ユーザが見つかりませんでした (Call failed – The user could not be found)

[名前、番号、またはアドレスを入力 (Type name, number or address)] フィールドに入力された着信者 ID を確認します (過去のエントリは、[最近のコール (Recent calls)] タブの下で使用可能です)。

これが正しい場合は、次を確認します。

- 着信側はオフラインですか?
- 着信側はこのネットワークでダイヤル可能ですか?

コールが失敗しました : ユーザに到達できませんでした。あとでもう一度実行してください。(Call failed – The user could not be reached. Please try again later.)

ユーザが応答しませんでした。

コールが失敗しました : サーバからエラーを受信しました (Call failed – An error was received from the server)

VCS によってコールが拒否されました。サーバから受信されたエラー メッセージは、ユーザの監査ログにあります。『Cisco TMS Provisioning troubleshooting guide』の「Movi troubleshooting」の項を参照してください。

コールが失敗しました : コール ライセンスが不足しています (Call failed – Not enough call licenses)

使用可能なすべてのライセンスが使用中の可能性あります。VCS の [概要 (Overview)] ページでコール ライセンスの使用を確認します。

電話帳検索はエントリを返しません (Phone book searches do not return any entries)

デフォルト サブゾーンで [認証ポリシー (Authentication policy)] が [クレデンシャルを確認しない (Do not check credentials)] に設定されている場合、電話帳検索要求は拒否されます。

- デフォルト サブゾーン認証を [クレデンシャルを確認する (Check credentials)] に設定して、ローカル認証データベースに適切なユーザ名とパスワードを設定することが推奨されます。

プレゼンスの更新に失敗しました (Failed to update presence)

デフォルト サブゾーンで [認証ポリシー (Authentication policy)] が [クレデンシャルを確認しない (Do not check credentials)] に設定されている場合、Movi に「プレゼンスの更新に失敗しました (Failed to update presence) 」というメッセージが表示されます。

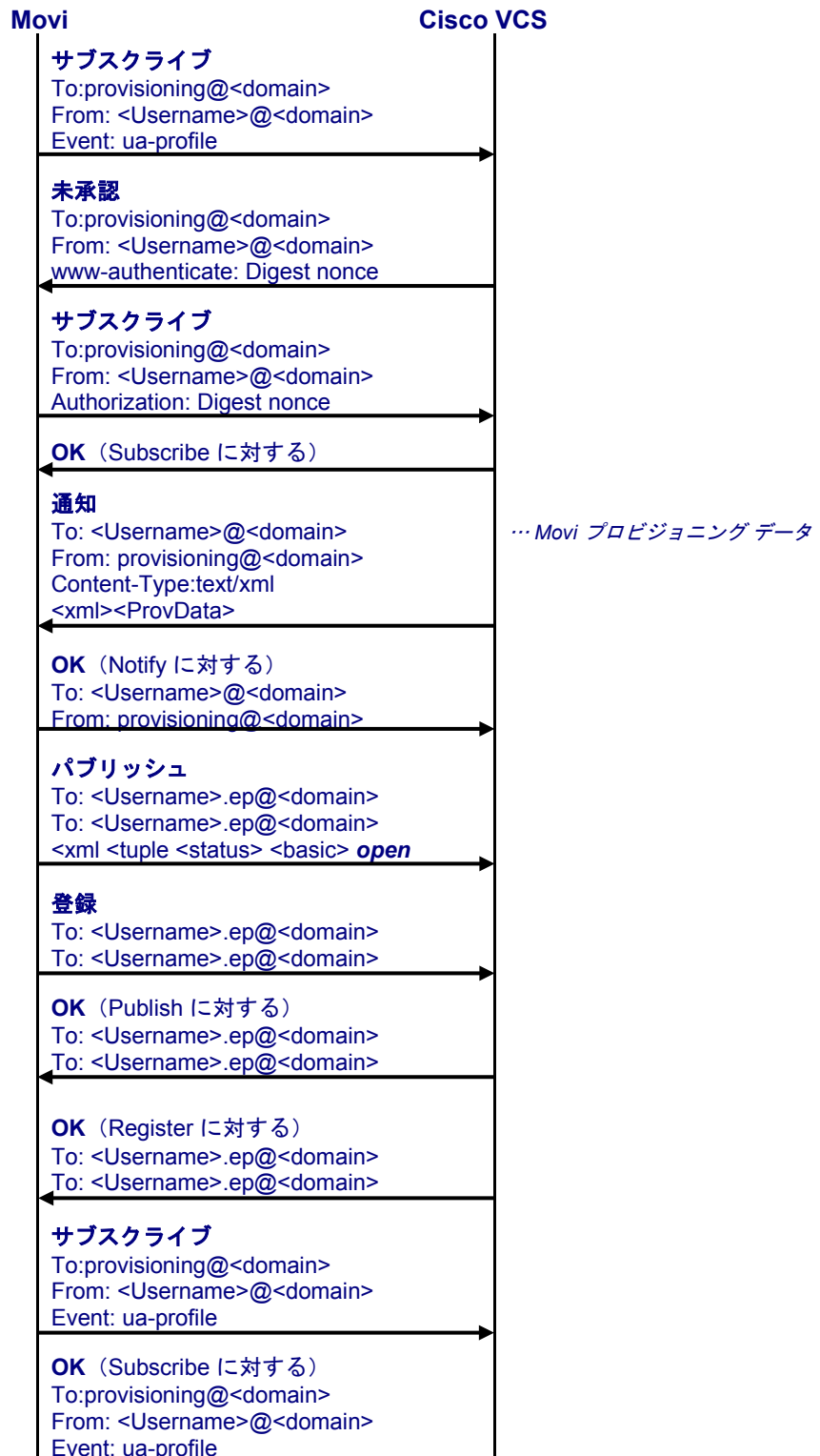
- デフォルト サブゾーン認証を [クレデンシャルを確認する (Check credentials)] に設定して、ローカル認証データベースに適切なユーザ名とパスワードを設定することが推奨されます。

シグナリング レベルのトラブルシューティング

通常トラブルシューティングは、最初のインスタンスで Movi を実行している PC 上の Wireshark (無料のオープンソース パケット アナライザ) トレースを取得して、実施するのがベストです。

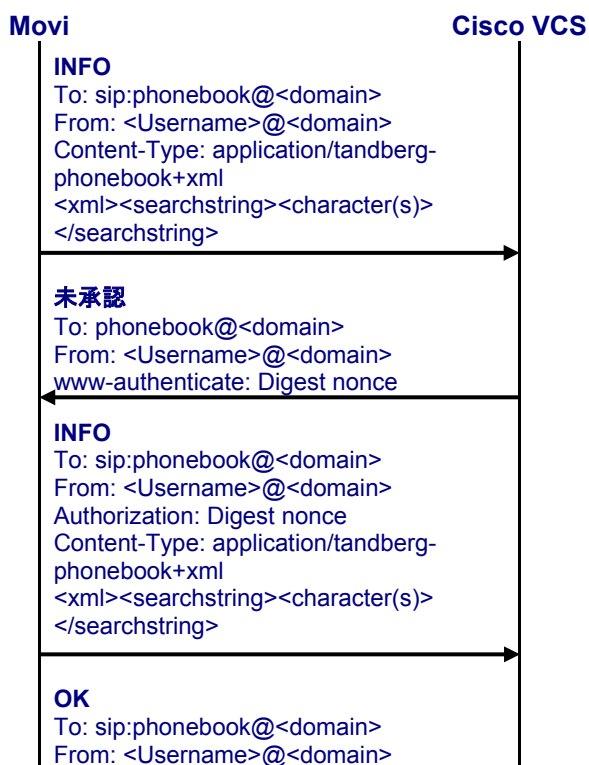
ただし、Movi が TLS 経由で通信している場合、メッセージは暗号化され復号できないことに注意してください。可能な場合には、TLS をオフにするか、SIP ロギングを使用します。

Wireshark トレースで、次のシーケンスが監視されることを確認します。





Movi が電話帳情報を検索する場合、メッセージフローは次のようになります。



```
Content-Type: application/tandberg-  
phonebook+xml  
<xml><searchResponse>  
<DisplayName>
```

Movi の [名前、番号、またはアドレスを入力 (Type name, number or address)] フィールドに入力される文字が増えるにつれ、指定されたより多くの検索文字列の文字を使用した詳細な INFO メッセージ (Authorization ヘッダー付き) が送信されます。各 INFO メッセージでは、OK が検索文字列と一致した最初の 10 個の電話帳エントリとともに戻ります。

注：「401 未認証 (401 Unauthorized) 」または「407 プロキシ認証が必要 (407 Proxy authentication required) 」ではトレースが拡張される可能性があります。

- 「初回サブスクリプションへの応答がありませんでした (Failure to get any response to the initial subscribe) 」 : 間違った内部 VCS または外部 VCS の値が設定されている (または DNS が名前を IP アドレスに誤って変換している) 可能性があります。
- 「401 初回サブスクリプションが再度未認証 (401 Unauthorized for a second time to the initial subscribe) 」 : Movi でのユーザ名およびパスワードクレデンシャルが VCS の [認証 (authentication)] ページで設定されたものと一致しません。
- 「登録できません (No OK to Register) 」 : Movi で設定された SIP ドメインが、VCS で設定された SIP ドメインと一致することを確認します
 - 許可および拒否リストがこの登録をブロックしていないことを確認します
 - VCS イベント ログ ([ステータス (Status)] > [ログ (Logs)] > [イベント ログ (Event Log)]) を確認します

付録 3 : スターター パック プロビジョニングと Cisco TMS プロビジョニングの比較

	Cisco VCS Starter Pack Express プロビジョニング	Cisco TMS を使用した Cisco VCS のプロビジョニングおよび管理
Movi プロビジョニング	✓	✓
E20 プロビジョニング	✓	✓
Ex60/Ex90 プロビジョニング	✓	✓
MX200 プロビジョニング	✓	✓
アーキテクチャ	集中型	集中型/分散型
登録	50	VCS あたり 2500
クラスタのサポート	✗	✓
フェールオーバー	✗	✓
同時発生コールの数	5 (ただし追加トラバーサルコール ライセンスを追加できません)	VCS あたり最大 500 の非トラバーサルコールと 100 のトラバーサルコール
登録キャパシティ	50	VCS ごとに 2,500、クラスタごとに 10,000
プレゼンス サーバ	50 台の登録	10,000 台の登録
インターワーキング ゲートウェイ	✗	✓
FindMe™	50 ユーザ	オプション
グループ FindMe™	✗	✓
Multiway のサポート	✗	✓
SIP のサポート	✓	✓
ICE のサポート	✗	✓
Movi のプロビジョニング	基本	詳細設定 (Advanced)
Cisco TMS の管理	✗	✓
ユーザの詳細の AD インポート	✗	✓
ユーザごとの個別の設定 (帯域幅、電話帳、暗号化の設定)	✗	✓ (グローバル、グループおよび/またはユーザ)
電話帳	Local のみ	✓
複数のユーザ グループ	✗	✓
レポート	✗	✓
スケジュールおよび予約	✗	✓

	Cisco VCS Starter Pack Express プロビジョニング	Cisco TMS を使用した Cisco VCS のプロビジョニングおよび管理
エンドポイントの管理	x	✓
自動 Movi ソフトウェア更新のアラート	x	✓

付録 4 : 既知の制限

ユーザの表示名の変更

ユーザ アカウントの [表示名 (Display name)] に対する変更は、電話帳にすぐに反映され、FindMe 検索で返される表示名になります。

ただし、SIP メッセージング内の発信者 ID の表示名は、関連する Movi が再プロビジョンされた後にだけ更新されます (たとえば、サインアウトして再サインインした後)。

付録 5 : SIP URI で使用可能な文字

次の文字セットが SIP URI で使用できます（詳細については、RFC 3261 で参照できます）。

a-z、A-Z、0-9、「-」、「_」、「.」、「!」、「~」、「*」、「'」、「(」、「)」、「&」、「=」、「+」、「\$」、「/」、「;」、「?」、「/」

他の文字が必要な場合は、「%」を使用してエスケープ処理された 2 桁の 16 進数を使う必要があります。

ここで「2 桁の 16 進数」は、必要な文字の ASCII 値です。

たとえば、john%20doe@example.com（%20 は空白文字）

付録 6 : 発信者の FindMe ID の判別

VCS は次の場合にのみ発信者 ID を FindMe ID で上書きすることができます。

- コール シグナリングが、FindMe データが保留されている VCS（または VCS クラスタ）を通る
- VCS が、FindMe をエンドポイント発信者 ID のオーナーとして識別できる

これらのいずれかの条件を満たさない場合、着信コールの発信者 ID は変更されずに通ります。

VCS は、コールで提供される着信コールの発信者 ID が次の場合、FindMe をエンドポイント発信者 ID のオーナーとして識別します。

- 単一の FindMe アカウントで唯一発見された FindMe デバイスと一致する

または

- 単一のプリンシパル FindMe デバイスと一致する（同じデバイス アドレスが複数の FindMe プロファイルと関連付けられる場合）

プリンシパル デバイス

プリンシパル デバイスは、それらを所有するユーザの主要なデバイスとなるように設計されていることに注意してください。

- ユーザ アカウント ページ ([メンテナンス (Maintenance)] > [ログイン アカウント (Login accounts)] > [ユーザ アカウント (User accounts)]、次にアカウントを選択または作成) の [プリンシパル デバイス (Principal devices)] セクションで VCS 管理者によって設定されている場合、デバイスはプリンシパル デバイスとして識別されます。
- ユーザは、アカウントにおける FindMe デバイスのリストからプリンシパル デバイスを削除できません。

付録 7 : Movi/Jabber Video および Active Directory (NTLM) の認証

この項では、Movi/Jabber Video (バージョン 4.2 以降) が (NTLM チャレンジを使用した) Active Directory サーバへの直接アクセス経路で認証できるように、VCS を設定する方法について詳細の要約を提供します。

ここではリモート ディレクトリ サービスへの LDAP 接続を使用するために VCS ユーザ アカウント (FindMe) の認証ソースの設定も行います。

この項では詳細の要約のみが記載されていることに注意してください。全詳細については、次を参照してください。

- 『*Device Authentication on Cisco VCS Deployment Guide*』
- 『*Authenticating Cisco VCS accounts using LDAP Deployment Guide*』

Cisco VCS での Active Directory サーバの詳細の設定

1. [VCS 設定 (VCS configuration)] > [認証 (Authentication)] > [デバイス (Devices)] > [Active Directory サービス (Active Directory Service)] に移動します。
2. [Active Directory サービスへの接続 (Connect to Active Directory Service)] を [オン (On)] に設定します。
3. [NTLM プロトコル チャレンジ (NTLM protocol challenges)] を [自動 (Auto)] に設定します。
4. Active Directory サービスに対する設定の詳細を次のように入力します。

AD ドメイン (AD domain)	これは、AD ドメインの完全修飾ドメイン名 (FQDN) にする必要があります。
短いドメイン名 (Short domain name)	これは NetBIOS ドメイン名とも呼ばれています。
[ユーザ名 (Username)] および [パスワード (Password)]	AD ドメイン管理者のユーザ名とパスワードを入力します。パスワードは大文字と小文字が区別されます。

5. [保存 (Save)] をクリックして設定を保存し、AD ドメインに参加します。
VCS が AD ドメインに参加します。エラー メッセージが表示された場合は、次を確認してください。

- このページの設定 (ユーザ名とパスワードを含む)
- VCS の CA 証明書、秘密キー、およびサーバ証明書

AD ドメインへの接続ステータスについて詳細を得るために、[Active Directory サービス (Active Directory Service)] ページの下部にある [ステータス (Status)] 領域を確認することもできます。

ユーザ ログイン アカウント (FindMe) の認証ソースの設定

1. [ログイン アカウント認証設定 (Login account authentication configuration)] ページ ([メンテナンス (Maintenance)] > [ログイン アカウント (Login accounts)] > [設定 (Configuration)]) に移動します。

2. [ユーザ認証ソース (User authentication source)] を [リモート (Remote)] に設定します。これは、ユーザが FindMe アカウントの設定のために VCS へログインする際に、それらのユーザは LDAP 経由のリモート ディレクトリ サービスに対して認証されることを意味しています。
3. [ログイン アカウント LDAP 設定 (Login account LDAP configuration)] ページ ([メンテナンス (Maintenance)] > [ログイン アカウント (Login accounts)] > [LDAP 設定 (LDAP configuration)]) に移動して、リモート ディレクトリ サービスへの LDAP 接続の詳細を設定します。
詳細については、『*Authenticating Cisco VCS accounts using LDAP Deployment Guide*』を参照してください。

ユーザアカウントの作成

1. ユーザアカウントを 12 ページのユーザアカウントの作成で説明されているように、Mov/Jabber Video アカウントを必要とする Active Directory の各ユーザに対して設定します。
 - [ユーザ名 (Username)] は、Active Directory で設定した名前と同じ名前にする必要があります。
ログインアカウントの [ユーザ認証ソース (User authentication source)] は [リモート (Remote)] に設定されているため、アカウントパスワードの詳細は要求されないことに注意してください。
 - [FindMe ID] は、name.surname@example.com など SIP URI の形式にする必要があります。
 - [プリンシパル デバイス (Principal devices)] セクションで、[Movi デバイス (Movi device)] を [オン (On)] に設定します。
 - 各ユーザのローカル認証データベース内の FindMe ユーザアカウントおよび認証クレデンシャルを設定する必要はありません (ログインアカウントの [ユーザ認証ソース (User authentication source)] が [リモート (Remote)] に設定されている場合)。

Mov/Jabber Video へのサインイン

これでユーザは、Active Directory クレデンシャルを使用して、Mov/Jabber Video へサインインできるはずですが、Mov/Jabber Video が、Mov/Jabber Video のインストールと設定に説明されているように設定されていることを確認します。

1. 次のように、Mov/Jabber Video へサインインします。
 - a. [ユーザ名 (Username)] フィールドで、<AD Short Domain Name>\username を設定します
(このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません)。
 - b. [パスワード (Password)] フィールドで、選択されたユーザに対して、Active Directory データベースで設定されているパスワードを入力します。
2. [サインイン (Sign in)] をクリックします。
登録に成功すれば、VCS への Movi のプロビジョニングおよび登録の認証が、Active Directory データベース (直接) 認証を使用して機能することが確認されたこととなります。

詳細またはトラブルシューティングの情報については、『*Device Authentication on Cisco VCS Deployment Guide*』を参照してください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されていません。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>